
ご愁傷様

micky

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ご愁傷様

【Nコード】

N2817B

【作者名】

m i c k y

【あらすじ】

いきなり服部平次の家に来た工藤新一。不機嫌に時だけが過ぎていきます。

（前書き）

短い文章です。

関西弁は苦手だけどチャレンジしてみました。
ではどうぞー！！

「工藤……。いったい何しに来たんや」

俺の部屋で横になってるこの男。

「何しにつて。そんな細かい事気にすんなよ」

人の部屋で推理もんの本ばかり読んでるこの男……。

「お前の家って広いのに本少なくねーか？」

拳句の果てに人の家の事に文句をつけるこの男。

「で……。何しに来たのかってさっきから聞いてるやろが!」
思わず青筋立てて怒鳴ってもうた。

すると読んでいた本を閉じて、

「お前に会いにきたって言ってるだろう」

工藤は王子様みたいな笑顔を俺に向けてそう言った。

「気色悪う……」

まあ……。検討はつくけどな。

推理なんていらん。

あのねえちゃんと絶対何かあったんや。

そやないとわざわざこないな所まで不機嫌な顔で来んやろしな。

工藤がおると俺の部屋やのに落ち着かれへん。

和葉ならいくらおつてもええんやけど・・・。

そや！・・・和葉なら知つとるかもしれんな。

俺は部屋から出ようと立ち上がった。

「何処に行くんだよ」

「便所や。べ・ん・じょ」

すると工藤が小説のページを捲りながら

「ああ、和葉ちゃんに電話するんだったら午後の方はいいぜ。何か用事があるってさっき言ってからさ」
とつまんなそうに言った。

「そうか・・・そんなら仕方ないなあ。じゃあ、午後にも・・・
って何でお前が和葉の行動を知つとんねん！！」

「本場の乗り突っ込み・・・おもしれー・・・」

俺は元いた位置に座り、工藤をずっと睨んでいた。

「毛利 蘭」

工藤が一瞬ピクツと動いた。

「男が出来たとか・・・か？」

あのねえちゃんに限ってありえへんけどな。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

うそやろ？

「・・・告白されている現場をたまたま見てしまったんだ。あいつ顔真っ赤にして頷いててさ。なんではっきりと断んねーだよ。クソ！」

あっ・・・俺の本投げたでこいつ。

まじで・・・。

「ご愁傷様・・・」

なんて言ったらいいか分からずに思わずそんな事を言ってしまった。

ああゝ怒つとる。

でも大体読めたで・・・。
だからこいつ和葉に連絡してあのねえちゃんの事聞いたんやな。

「俺が和葉に聞いたるか？」

「べつつにいらねーよ！」

拗ねてるでこいつ。

天下の工藤新一が一人の女に振り回されるで。

「告白されたのっていつ頃の話なんや？」

「・・・先週だよ。剣道の全国大会にオメーの応援に行ったときに、
なんか白い胴着きた奴が蘭に絡んできたんだよ」

その時工藤の携帯が鳴った。

「和葉ちゃん？うん・・・・・・そうだよな。
本当にありがとう。うん。また」

工藤が立ち上がって外へ出て行こうとした。

「おい、何処にいくねん」

「何処って・・・東京に戻るに決まってるだろう？蘭が俺のこと待
ってるって言うし」

何・・・なんやねん！！

「蘭ちゃん。うちに告白してきた人に断りに行ってくれたんや。そしてたら蘭ちゃんにどんだけうちの事が好きかを切々と語ってたみたいなんよ。聞いているほうが恥かしくなる位らしいで。結局、蘭ちゃんなんかを言っただけで諦めてくれたみたいやけどな。ホンマたまにやけどな、うちも変なのになんか好かれてしまうねん。平次には内緒にしてな。試合観に来るなとかいいそうやし」

ああ、服部には言えねえよな。

相手を探し出して殺しかねないから・・・。

だからお前が俺に言ったその言葉を返してやるよ。

「」愁傷様」

「なんやねん！おい、こら待て工藤。待たんかい！！」

部屋には腑に落ちない服部が一人。

ただ立ち尽くして嬉しそうに帰っていく新一を見送るのだった。

（後書き）

もてる彼女を持つ彼らは大変です。

そんな彼ら彼女に対しての今回のタイトルです。

そしてこれには実は続きがありました。

だけど関西弁が苦手なのでどうしようか迷っています。

和葉に告白した男の子って誰だと思えますか？

いつ和葉の事を好きになったのでしょうかね。

こんな関西弁でよければ次回を書いてみたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2817b/>

ご愁傷様

2011年1月4日00時04分発行